

2015年度 活動テーマ参加者募集（関東支部）一覧

キーワード	活動テーマの背景ならびに活動案	テーマ（例示）
1 ◆ DB統合・仮想DB	コスト効率化や柔軟性の高い業務改革を目指すクラウドが注目され、企業内のシステムでも仮想化によるサーバー統合が進んできている。しかし、データベースサーバーの統合まで行うケースは少ない状況にある。DB集約はなぜ進まないのか。また仮想DB技術も出現し、企業のビジネスを支える根幹ともいえるデータベース技術の今後を予測しつつ、そこへの移行メリットや課題を整理して提言する。	■例示【案】 ・基幹系DBの集約や仮想DB技術の利用
2 ◆ DevOps	DevOpsは、クラウド、ビッグデータに次ぐITキーワードになっている。しかし、DevOpsの意義や価値に対する理解はまだ浸透しているとはいえない。DevOpsは企業や開発・運用現場に何をもちたすものなのかを研究し、企業の情報システムの今後を予測しつつ、適用メリットや適用における課題を整理して提言する。	■例示【案】 ・DevOpsで変わる企業の情報システム
3 ◆ ビッグデータ	「ビッグデータ」という単語は認知されてきたものの、実際に活用している企業は日本では少ないのが現状である。基盤技術（Hadoopなど）、分析方法（統計分析）、またそれを活用する人材や組織のあり方から、企業への導入方法を考える。	■例示【案】 ・ビッグデータの分析技術と活用方法を探る
4 ◆ IoT・セキュリティ	自動車や家電製品、制御系システム（工場や交通など）がネットワークに接続可能になることで、不特定多数のアクセスを受ける恐れがあり、セキュリティ対策が喫緊になっている。対策や防衛の方向性を考察し、メーカーやベンダへ提言する。インターネットに接続されるということは、セキュリティ上のリスクが発生することでもある。企業にとって、IoTが抱えるセキュリティ課題とそれを解決するために必要な対策を研究する。	■例示【案】 ・IoTセキュリティで企業が考慮すべきこと
5 ◆ IoT、ビジネス・業務改革	さまざまなモノがインターネットにつながり、様々なビジネスシーンでの活用を期待されるIoT。また、一口にIoTと言っても、様々な活用方法がある。身近なIoTの活用によってどのように業務効率の改善が測れるか実際に構築し活用事例を示す。	■例示【案】 ・IoTによる業務効率改革 ・IoT時代に必要なシステム技術の研究
6 ◆ マイナンバー制度	「マイナンバー制度」が、2016年1月に開始される。この制度はあらゆる規模の企業を対象にしており、人事労務や経理などの業務システムに大きな影響があると考えられる。企業はそれまでに、社内業務や基幹業務システムでこれらの番号をどのように活用するか、また勝つように向けた課題と解決案を研究する。	■例示【案】 ・マイナンバー制度と業務システムへの影響
7 ◆ ヘルスケア	厚生労働省によると、医療費が2013年度に39兆円を超え、2025年度には70兆円を超えると予測されていて、高齢者に対する高度医療から、現役世代の健康管理への投資シフトが行政で検討されている。現役世代を多く抱える企業が率先して従業員の健康促進を促すことで、生活習慣病の医療費削減だけでなく、生産性向上や売上収益改善を目指す「健康経営」が注目されている。上記の社会課題に対するビジネス機会や企業の経営にどれだけ寄与できるかを調査検討し、可能であれば試行を目指す。	■例示【案】 ・スマートプラチナ社会、データヘルス計画に向けたビジネス検討 ・健康経営による従業員の働きやすさと生産性向上の相関の検証
8 ◆ デザイン思考	デザインは、課題を発見し、人々の行動や活動の場などを考察して課題の本質を捉え、造形力を発揮して解決案を創出する行為である。このような、デザインの分野でなされてきた考え方のプロセスが、近年、さまざまな分野で適用され始めている。デザインの考え方を使得ってイノベーションを起こす足がかりを創出する可能性を、実証実験を通じて検証する。	■例示【案】 ・誰もが取り組めるデザイン思考でイノベーションを起こす
9 ◆ ソフトウェア・デファインド・アーキテクチャ	デジタルビジネスを支えるIT部門においても、ハイブリッドクラウド、プライベートクラウドを利用し、サービス構築までの俊敏性を求められる。ソフトウェア・サービスにおいて、管理、統制しながらも、一定レベルの拡張性、信頼性、即応力、生産性、効率性がより一層必要となることを踏まえ、ソフトウェア定義型アーキテクチャが、その解決策となるか、評価し、その課題分析し、採用可能性を探る。	■例示【案】 ・ソフトウェア・デファインド・アーキテクチャ可能性
10 ◆ 品質向上	近年、仮想化やクラウドの浸透、セキュリティ問題多様化など、システム運用に課される要件は複雑化の一途をたどっている。システム運用部門にとっては社内外の関係システムをいかに安定的高品質かつ適正価格で運用し、企業経営に貢献するかが重要な課題となってきた。今年度は、今後ますます重要性が増していくシステム運用保守に着目し、システム運用保守の品質維持／向上について研究していく。	■例示【案】 ・システム運用保守の品質維持／向上
11 ◆ ICT環境最適化	大きく、クラウド・モビリティ・ソーシャル・ビッグデータの4つの要素の関連性があるキーワードであるが、クラウド・モビリティ・ソーシャル・ビッグデータはそれぞれがここ数年で飛躍的な成長を遂げたと思う。今後は、これらの要素をうまく活用したICT基盤を構築することにより、低コストで効率のより仕組み作りができるのではないかと？	■例示【案】 ・ICTの最適な基盤を考える
12 ◆ クラウドサービス	サーバーの仮想化に切り替える時期の費用化は比較的安易に実行できるが、次回切替時になると、ユーザー移行費用等のコストを徴収することが可能かどうか問題となる。また、タブレットやモバイル等の回線料金の管理等も必要になると考えられる中、最適なシステムの構築が求められる。クラウドサービスの、上手な活用方法をモデル化する研究	■例示【案】 ・クラウドサービスの上手な活用方法の検討
13 ◆ 2020年ICT構想	2020年オリンピックには当然多くの観光客が訪れることになる。日本における観光客が満足できる社会インフラ・各業種サービス等の幅広いIT活用の構想を検討し、日本のあるべき姿描き、具体的な検討を行う。	■例示【案】 ・オリンピックとICT ～Japanese ICTでおもてなし～
14 ◆ スマートデバイス（ウェアラブル含む）	スマートフォン、タブレット端末などのスマートデバイスのきているが、すでに導入した企業、導入を検討している企業ともに、課題を抱えているのが実情。活用のための企画手法、効率的な設計、開発手法、運用フェーズにおける運用管理、セキュリティ担保や、TCOを見据えたコスト計画と評価 などの課題があげられる。また、スマートバンドなどウェアラブルをキーワードとしたデバイスが現れてきており、スマートデバイスとの連携が可能な新たなスマートデバイスの出現は、既存のスマートデバイスの活用に新たな方向性を与える可能性がある。スマートデバイスが成熟していく中で、これらを企業内で取り入れるに当たった課題に対するベストプラクティスを見出すべく研究していく。	■例示【案】 ・スマートデバイス利用アプリケーションの効率的な開発手法 ・スマートデバイスのスマートな運用管理手法 ・スマートデバイスを拡張するデバイスの企業内活用をさぐる

2015年度 活動テーマ参加者募集（関東支部）一覧

<p>15</p> <p>◆ 若手IT技術者</p>	<p>これからのIT発展を担う技術者の人材育成は、企業にとって重要な施策である。システムに携わる人材は技術スキル取得をメインに考えている傾向が強い。しかし長い目で会社人生を捉えて人材育成視点、自己啓発視点を常に意識していく必要がある。企業の存在意義を確認することにより働き甲斐、生きがい、更に個人のパフォーマンスを発揮するために何が重要か？ 入社3～5年生は会社に慣れこれから目指すもの、会社側から期待されていくためには参加者が自ら考え、テーマとなりをすべきかなど、方向性を検討・決定していく研究活動、これらをさらなるビジネススキル、ITスキルまで拡大につなげることを考える。</p>	<p>■例示【案】</p> <ul style="list-style-type: none"> 若手技術者が職場で活躍するために (参加者の方々にテーマ検討)
<p>16</p> <p>◆ ダイバーシティ</p>	<p>女性活躍推進は、グローバル化やイノベーションを見据えた大手企業や女性比率の高い企業では10年程前より進められている。また現在、通常国会では女性活躍新法案が提出され、成立すれば各企業における女性活躍推進は義務となることから、各企業の関心は非常に高い。しかし現状としては、進んでいる企業/業界と全く手付かずの企業/業界との差が顕著になっている。本グループでは先進企業に習い、女性活躍推進に効果的な施策、およびこれから取り組む企業に向けた導入・推進のノウハウについて研究し、ダイバーシティ経営企業のあり方について考察する。</p>	<p>■例示【案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ダイバーシティ戦略に役立つ女性活躍推進のあり方
<p>17</p> <p>◆ 物流業務品質向上</p>	<p>消費者に向けた物流は高度化し、日本においては時間指定宅配やコンビニエンス引取りが当たり前となり、海外ではドローン（無人飛行機）による宅配や車両の自動運転もその実用化に向けて動き出している。IoTの進化によりさらに高度化する世界の中で物流はどう進化するのであろうか。今後の物流のあるべき姿、IT技術との関わりを検討する</p>	<p>■例示【案】</p> <ul style="list-style-type: none"> 将来の物流のあり方とそれを支えるIT技術を考える